

## 平成26年度実施「いきいき協働事業」相互検証評価シート

事業名	省エネ・創エネ関心度アップ事業
団体名	NPO法人
担当課名	環境保全課

## ①目的の共有（事業の目的をお互いに理解し、共有しながら事業を進めたか）

団体自己評価：達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民活動支援公募事業の補助金と違い、目的に対し当初から一緒に取り組めた印象がある。</li> <li>・以前から関連のある事業と一緒に取り組んでいたため、円滑に実施できた。</li> </ul>	

## ②自主・自立の尊重（双方の団体としての独立を尊重し、過度に依存することなく事業を進めたか）

団体自己評価：達成できた	担当課自己評価：達成できた
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市は広報と会場の確保等を中心としたが、チラシの配布等は団体のネットワークを活用できた。また、市の展示も一緒に出すことができた。</li> <li>・お互いに事業の準備に対する進捗状況など、情報の共有が更に必要であった。</li> </ul>	

## ③相互理解（互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方を理解し、柔軟な対応が図られたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業を実施した3日間は、展示等を工夫し柔軟な対応ができた。</li> </ul>	

## ④対等関係（互いの事業活動における対等な立場を踏まえ、事業を進める様々な場面において、適切な協議、意見交換等の機会を設け一方的に決めることなく十分に話し合ったか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの関係性を踏まえ、提案をする際に十分な調整を行ったことが、効果的な実施につながった。</li> </ul>	

**⑤情報の共有（相手方と十分な情報の共有ができたか）**

団体自己評価：達成できた	担当課自己評価：達成できた
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から、環境活動に関わる団体であるので、市との情報共有はスムーズであり、改めて打ち合わせ等の機会を作ることは少なかった。</li> </ul>	

**⑥役割分担と責任の明確化（事業実施にあたって役割分担が明確に定められていたか）**

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに自発的に取り組んだ。市もこれまでのイベント開催の経験を、生かすことができた。</li> </ul>	

**⑦協働事業の相乗効果（市が単独で実施するより効果的・効率的な事業展開ができたか）**

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体だけでは予算的に難しい内容であった。また、市の広報は集客につながったと感ぜられる。</li> <li>・市だけでは様々な種類の展示や、手作り感のあるアットホームな雰囲気は難しいと思われた。</li> <li>・目的はシンプルであるが、課題は大きい。マンパワーや専門性は団体の力を借り、改めて豊富な人的資源を感じた。</li> </ul>	

**⑧目標の達成（事業の目的が達成できたか）**

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分に実行されたと感じた。</li> </ul>	

**⑨地域の課題解決（事業を通じて地域の課題解決につながったか）**

団体自己評価：達成できた	担当課自己評価：達成できた
<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心のある人だけでなく、様々な人に省エネ、創エネを伝えられ、手ごたえを感じた。</li> <li>・アンケートでは、意外な結果ではあるが、その場に居合わせて参加した人が多く、オープンな会場の雰囲気が良かったと思われる。</li> <li>・太陽光パネルの作成講座は、25,000円の費用負担にも関わらず、5人定員のところ10人の申し込みがあった。開かれた場所での開催も考えられ、潜在的な関心の高さを感じた。</li> </ul>	

## ⑩その他意見（提案団体から）

団体のメンバーからは、来場者と様々なことを話したことで学ぶことがあり、対話して伝えることが楽しかったという意見が多かった。

一方的な主張の参加者だけでなく、家族連れなどの参加もあった。大学にも広報し、学生にも関心を持って欲しかった。

NPO ができることの限界を感じる、市が関わると市民からの印象が違ふ。市民とのコンタクトが生まれるのは行政の協力が必要である。

ここから次の事業に展開できるとよい。また、毎年開催することで、更に普及すると思われる。27年度は市役所で開催する予定である。

## ※自己評価項目

1	十分達成できた
2	達成できた
3	概ね達成できた
4	目標を下回った
5	達成できなかった